

Dallas-Sendai Young Ambassadors 2013

Student Reports

Homestay in Dallas

仙台第二高等学校 二年 金 あおい

私は Anny Wong さん、Sara Banaszak さん、Koa という一匹の賢い dog のお家にホームステイをした。フォートワース空港の近く、Irving の新しい住宅街。夜になると野生のうさぎが出てくる。お家のバスルーム、部屋など一階のスペースを貸してくれて、とても快適だった。二人とも相撲や桜など、日本のことが好きで、家には日本製の醤油やワサビ、ソース、すだれなどたくさんあった。Anny さんは日本に前に住んでいたことがあり日本語を上手に話していてびっくりした。私の体調を考えてくれ、現地の時間に合わせる事が大事ということで、初日はとても長い一日だった。ホストファミリーとの自由行動は2日間しかないので、毎日たくさん話して触れ合おうと心がけ、たくさん質問をした。実際に話すとなると単語が並び、流暢に話すことが難しかった。しかし、ゆっくりジェスチャーを使い、日本語を織り交ぜいろいろな表現の仕方を親切に教えてもらい、やっと理解することができた。これから英語をしっかりと習得し、自分の意見をきちんと伝えもつと通じ合えるようになりたい。

食事では中華料理、Cajun 料理、イタリア料理、メキシコ料理、Fried chicken、おいしい BBQ に行った。アメリカは多民族国家でいろいろな国の料理を楽しんだ。新鮮な野菜や肉などを売る Farmer 市場やスーパー、いろんなお店に行った。スーパーはとても広く、商品も中身も Big。湖や建造物などを見て、テキサスの歴史や習慣や文化を教えてくれた。27日には人生初セグウェイ。話題の乗り物でダラス中心を観光した。方向と速さを調節するのが面白かった。夜はロデオを間近で初めて見た。とにかく会場は熱狂に包まれとても迫力があつた。28日にはアドベンチャーパークでターザンのようにロープをすべり降り、スピードと高さ、風、自然の景色を楽しんだ。

日本のお土産を渡し、自分の家族や学校や部活、仙台の紹介し、我が家風ソーめんを作り、折り紙で立体の星を作る方法を伝授し、けん玉で遊んだ。日本のことを知り、とても喜んでくれてとても嬉しかった。

フェラウェルパーティーでは浴衣を着て、震災の感謝の気持ちをこめ、私は speech した後、みんなの合唱に合わせて、フルートを演奏した。みな温かく交流してくれ、親睦を深めた。

私はダラス青少年訪問団としてこのツアーに参加し、多くの人と出会い、アメリカの歴史や文化、習慣の違いなどを実際に直接触れ、学ぶことができた。自分自身の視野が広がり、成長することができた。

私は音楽が好きで、二人が好きな曲がある手作り CD を3枚いただいた。日本とは違ったアメリカの曲やハワイの曲にも触れることができ、とても大好きになった。心に残っている言葉は、CDの最後の曲にある、

It's my life. 新たな出会いや日々を大切に、挑戦の気持ちでこれから過ごし、自分の道を歩みたい。

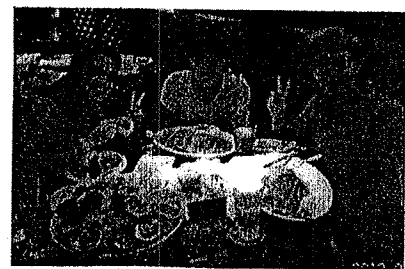
自分の荷物がお土産で満杯になってしまい、帰りにはスーツケース1つをいただき、又たくさんのお土産もいただいた。8日間のホームステイではとてもお世話になり、感謝している。

私の姉が9年前にダラス青少年訪問団でお世話になった、マロン恭子さんとご主人にお会いすることができ、また今回も交流を深めることができた。

これからもホストファミリー、現地でできた友達、そして仲間とずっとつながり続けていきたい。

今回ダラス青少年訪問団として、このような貴重な体験をさせていただき、多くの方に感謝している。

ありがとうございました! Thank you!



私の泊まり先は、Roseleah RautertさんとVelda Rautertさんのお宅でした。

初めにお家にお邪魔させていただいた時は「きれい」「素朴」「良い匂い」という印象を持ちました。2人ともとても優しく、自分の家と思って使うようにと何度も言って下さいましたし、果物好きには嬉しいことに、スイカやサクランボなどたくさんのフルーツを車内でも家でも出して下さいました。

ホストシスターのVeldaさんはとてもシャイで静かな人で、私もシャイですから、殆ど喋ることができず、もっと自分から積極的に話していくべきだったと思っています。

日中の活動が終わり家に帰ると毎回疲れて寝てしまい起きたのが夜中という日もあったのですが、起きた後にホストマザーのRosaleahさんは色々な映画をVHSで見せて下さったりドライブにつれて行って下さったりしました。中でも記憶に残っているのはロデオに行ったこととホストファミリーのお友達のお宅に遊びに行った時のことです。ロデオでは、とにかく歓声に驚かされました。いろいろなプログラムがあり、エキサイティングでした。2つ目の方は、Ballard家に伺い、プールや湖で遊んだという思い出です。日本語ペラペラのお父さんのおかげでコミュニケーションをよくとることができました。家族の女の子たちとも趣味の方で意気投合し、さらに楽しいものとなりました。

ホームステイという初めての経験で、アメリカの生活、文化にたくさん触れることができました。日本に帰るのは淋しかったですが、この経験が私の人生の中で大きく役立つことを期待しています。

ホストファミリーの皆さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

青島 あやか

Kotaro OBARA
小原

私は小学四年生の時、父の仕事により一家で渡米したことがありました。しかし、アメリカ人の食生活や休日・祝日の過ごし方などを経験したことがなかったので、ホームステイにとっても慣れていました。今回はダラス市に青少年訪問団の一員として来ることができ、念願のホームステイを体験することができました。

私がお世話になったのは Steinauer (シュタイナウアー) 家でした。ご主人がアイルランド系で、奥さんと4歳、6歳の男の子がいました。長男の Davon (デイブ) 君は野球少年で、次男の Aiden (エイデン) 君はとにかく元気のいい子でした。

渡航前に事前にご主人とメールでやり取りをしていたのですが、本場の野球を観ることが夢です！と伝えたところ、なんと地元レンジャースの観戦チケットをおさえてくれました。行く前から感激しっぱなしでした。

空港で歓迎をうけ、ホストファザーとステイ先に向かいました。車中でさっそくお互いに質問をしました。「今日の気温は普通ですか？(約40℃)」「涼しいほうかな～」や、逆に「仙台では何時くらいに日が沈むの?」「もう薄暗いですよ～」などなど、初日から驚きばかりでしたが、ホストマザーの手料理や子供たちの熱烈なハグ合戦に酔いしれていました。

翌日、レンジャースのナイターに行きました。イチロー選手を観られたこと、強豪ヤンキースに勝ったこと、ホストファザーとプーイングをしたこと、知らないおじさまとグータッチしたことなど、夢を叶えられた幸せな日でした。ここで、私が気付いた事として食前のお祈りを挙げます。ホストファミリーはカトリック信者で、初日のディナーでは十字を切っていました。しかし球場ではそのまま食べ始めているのをみました。周りを見てもホットドッグに向かってお祈りしていた観客はいませんでした。おそらくですが、みんなでお祈りを教える時がベストタイミングなのかな、と思いました。それからはお祈りの言葉を教えていただき、私も同じスタイルで食事をしました。

訪問先を全て回り終えてからは、ホストファミリーとの自由行動の日がありました。家族全員でアウトレットモールへ行き、ブランド物を買ったりしました。大きな湖で skipping stone (水切り) をして遊んだり、町役場の立派な建物を案内してもらったりもしました。

このままアメリカ人として残りたいとさえ思っていました。私には母校の小・中校で見聞きしたことを伝える、という役割があります。後輩達にもダラスに興味を持たせたいです。そして他の友好都市や国々にも目を向けてくれたらな、と思います。

Mayu Komatsu

ホストファミリーとの生活

私がホームステイした Berry 家は、Mark さん(父)、Liz さん(母)、Robert(兄)、Lisa(姉)、Leslie(妹)という家族構成でした。

[初日]Leslie が運転する車で彼女の友達とドライブに行きました。お互いの学校の事や、好きなアーティスト等、まだ慣れない英語で一生懸命会話をしました。朝食はホストマザーが毎日美味しいマフィンを焼いてくれました。

[2 日目]大リーグの試合を観に行きました。球場はとてもお洒落で、地元のレンジャーズ対イチローが所属するヤンキース戦という事でイチローを観ることができ、貴重な体験をさせていただきました。

[3 日目]今回のダラス訪問の引率をしてくださった佐藤さんと須藤さんもご一緒し、ステーキを食べながらダンスもできるとも素敵なディナーに連れて行って頂きました。アメリカンサイズのステーキはとても絶品で、初めてのダンスも Leslie に教えてもらい、楽しいひと時を過ごすことができました。

[4 日目]Lisa さんと Leslie と彼女の友達と shopping に行き、それぞれのお店を見て回りました。日が暮れると "drive in movie!" 名前から想像できるように、車の中から、外にある大きな白い壁に映し出される映画を観るというアメリカの映画でしか観た事のないスタイルでの映画鑑賞を体験できました。

[5 日目]ホストファミリーとの休日。ロデオを観に行きました。暴れる馬の上にどれだけ長く乗り続ける、子牛を捕らえて縄で縛る等競技は様々ですが、迫力がありテキサスらしいものでした。

[6 日目]テックスメックスの美味しいレストランに連れて行ってもらいました。家族から素敵なプレゼントをたくさんいただき、私も一生懸命書いた手紙を渡し、感謝を伝えました。

6 日間を振り返ると、私は色々な所に行き、様々な体験ができました。英語での生活は楽なものではありませんでしたが、英語学習の意欲が高まりました。来年は Leslie が来仙するようです。その時は Leslie とナチュラルな英語で話せるように頑張ります。

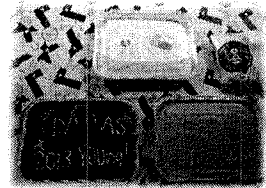
ホームステイ体験記

錦部 莉菜

空港に着いたとき、ホストシスターのトリが「ようこそりなちゃん！」という手作りのボードを持って、緊張していた私を暖かく迎えてくれました。トリは19歳で日本にとっても興味を持っている女の子です。優しくとてもしっかりしていました。ホストマザーのカレンはとても明るく面白いお母さんでした。猫のスタビーはとってもシャイですぐに隠れてしまいましたが最終日には私の部屋に来てくれました(*^_^*)

車に乗る時に気を付けようと思っていたのですが、すっかり忘れてに左に乗ろうとしてしまいトリに「違うよ！」と言われてしまいました。また、アメリカでは16歳から車を運転できることなど、やはりカルチャーショックを受けてしまいました(笑)

トリは料理が好きで一緒にフェアウェルパーティーに持っていくケーキを作ったり、お好み焼きを作ったりしました。とても美味しかったです。私もトリにちらし寿司を作ってあげたのですが喜んでもらえて嬉しかったです。また日本から持っていった、金太郎アメや扇子、巾着、じんべえなどのお土産もとても喜んでもら



えました。トリとショッピングに行ったり、家で映画を見たり、アメリカで人気な里芋味のタピオカを飲んだりしました。ロデオにも連れて行ってもらえたのですが、トリは小さい頃から馬に乗っていたこともありロデオにとっても詳しかったです。ロデオはとても見ていてハラハラしました。日本にはないスポーツだなあと思いました。

トリからは沢山のアメリカの文化について教えてもらいました。私はホームステイを通して、もっと日本について知るべきだと思いました。知っているようで実はあまり知らないというような事がありました。国際交流をする上で自分の国についてしっかりと知っておくことは欠かせないということが分かりました。またアメリカの人々は自分の考えをしっかりと持っていると感じました。日本では他人の考えに合わせがちとよく聞きますが、それは本当のことだと実感しました。プロクター家の一員として過ごした時間。私にとって一生忘れることのないとても楽しい貴重な経験となりました。

Thank you very much!



ホームステイ体験談

小林梨乃

私は、インド国籍の4人家族にお世話になりました。ダラス市に来るのもはじめてで、ホストファミリーとの初対面ということもあり、とても緊張しました。しかし、みんな明るく、とても話しやすく、最初に言われた一言が「Welcome Rino」という温かい言葉で一気に緊張がほぐれました。とても親切にしてくださり、とても支えになりました。そして、ホストファミリーとの生活が始まり、長く過ごしているうちに今まで聞いたことのない単語や質問されている内容がわからず、とても困らせてしまいました。

私は、英語は好きなのですが、ペラペラ英語が話せるわけではないため今まで勉強してきた文法を使おうと思っても、言いたいことが言えなかったりと、とても悔しい思いをしました。でも、毎日毎日聞いていると「昨日もこのフレーズ・単語が出てきた、こんな時に使えばいいんだ」というひらめきがあったり、とても楽しくなってきました。また、1日1日過ごしていくうちにホストファミリーの人柄もわかってきて、英語でふざけて会話ができた時は、仲良くなれたと実感しました。

また、毎日色々な所へ行ってもらいました。ボーリング、ロデオ、ゴルフ、映画館、買い物などに行きました。ロデオは、ダラスの名物でもあるので、見入ってしまいましたが、人が落ちた時に騒ぐのは、日本人にはないアメリカと日本の違いを感じました。

一番の目的であった「震災」についても、自分で本を持参して、説明を考えていたので、わかりやすく震災について伝えることができました。やはり、深くは知っていなかった様子でみんな衝撃を受けてきました。知ってもらえて良かったです。

これからも、ダラス市と仙台市がよりよい良い関係になる様に私も協力していきます。

私の second Family

岩淵 由佳

「How was your flight?」

「It was very great!!」

「Yuka is so funny!!!」

これは、空港で初めて会った時のホストファミリーとの会話である。

私はオーストラリア、ニュージーランドに続き今回が3回目のホームステイになるが、やっぱりホストファミリーと初めて会う時が一番緊張する。3回目だからと言って慣れたということは全くない。この「Yuka is so funny!!!」はホストマザーが大きな声でニコニコと笑いながら言ってくれた。この一言が、私にとって緊張と不安を一気に吹き飛ばす魔法の言葉となった。

私の家族はとっても明るくパワフルなマザーの Ann(48)、私と同年で、身長が180は余裕で超えていると思われる笑顔が素敵なシスターの Gabrielle(16)、キャンプに参加していたため3日間しか一緒に過ごせなかったけれどあつという間に仲良くなれたブラザーの(13) Isaac の3人家族だ。みんな優しく明るくて素敵なファミリーだった。

また、ここには書ききれないくらいたくさん色々な場所に連れて行ってもらった。特に心に強く残っていることは、Gabrielle と Gabrielle のお友達の(Raven) と3人でショッピングに行き最後に夜ご飯を食べた時の事だ。レストランで店員さんやその場にいたたくさんのお客さんが初めてアメリカに来た私のために歌を歌ってくれた時は感動して涙が出そうになった。その他にもパーティーに招いていただいた時に大きなステーキを食べることができたり・・・♡別の日には、ステイ先だった Southlake の市長さんと市役所で会う機会を作って下さり、市長さんに私の将来の夢を話すと行政に携わる中で大切な事や大変な事のお話をたくさん聞くことができた。

ホストファミリーのおかげで、多くのアメリカの人々とふれあうことができ、わずか一週間で4人の同年代のアメリカのお友達を作ることができた。これからも、メールや手紙で交流をもち続けていきたい!♡そして、今回私を引き受けて下さった素敵なホストファミリーに出会えたことに感謝し、これからも大切にしていきたい。

私のホストシスターが、「私ね、来年 Yuka と同じようなプログラムに参加して日本に行くことが決まっているの!」と嬉しそうに言っていた。今度は日本で Gabrielle に会えたらどんなに素敵だろうと思う!!

I love Earley family(*^o^*)!!

ホストファミリーとの思い出 熊谷 Yutaroh

ホストファミリーとの初対面はダラス空港でした。入国審査ですでに自分の英語の出来なさを痛感して、落ち込んでいる自分を温かく迎え入れてくださいました。僕のホストファミリーは、4人家族でインド系の方でした。おばあちゃん、母、父、プルジットは僕にアメリカでの生活を教えてくれました。一番強く感じたのは、アメリカの夜は長いことです。僕は毎日様々な場所に連れていってもらいました。映画館、メディバル・タイムス、モール、遊園地、ボーリング、ホストファミリーの友達の家。時差ボケも特に無く、楽しむことができましたが、やはり英語力の無さがつらかったです。たくさん話したくても、うまくしゃべれない。何を言っているのかはだいたい分かるようになってきましたが、自分からは話せない。僕は元気で乗り切る作戦に移行しました。ホストファミリーは笑ってくれました。その笑顔を見る度に英語が話せたらなと思いました。

家での食事は朝ごはんはワッフル、夜ごはんは外食でした。プルジットはゲーム、スポーツをするのが大好きで、家にいる時は一緒に「スマッシュブラザーズ」外に行ったら「バスケットボール」などをして遊びました。母、父には日本で撮った写真を見せたり、きゃりーぱみゅぱみゅを紹介したりしました。お土産も喜んでくれて特にかきの種は Good と言われました。

本当にホストファミリーは優しく、本当の家族のようにゆったりと過ごすことができました。これからも連絡を取り続け、またいつか Dallas に行つて再会できることを願っています。ありがとうございました。ダラスねーな♡

ホストファミリーとの体験

安田 佑哉

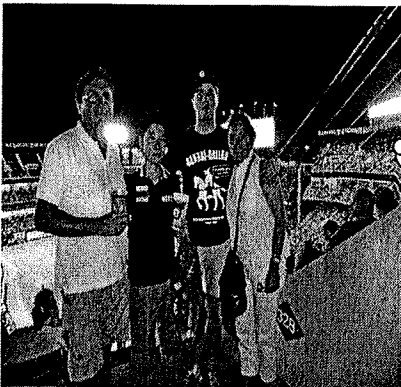
ダンパー（私）を受け入れて下さったホストファミリーは3人家族。優しく温厚で真面目なお父さん。クールで料理上手、いつも周りの様子を気に配ってくれるお母さん。そしてダラスでの生活のほとんどを共にした、やんちゃで、楽しいこと・食べることが大好きな一家の長男 Jaime（ハイメ）。そんな素晴らしい家庭の下で貴重な体験をさせていただき、たくさんの思い出を作ることができました。ここでは語りつくせないで、その中から厳選して紹介しましょう！

まずはダラスの食事情を知り尽したハイメと、グルメなダンパーのアメリカンフード巡りについて^^ハンバーガーショップやBBQハウス、メキシカンレストランなど計5軒を巡った中で最も印象に残ったのはタコス専門店！Jaimeが I LOVE TACO！と言って僕にタコスについて熱く語りたくなる気持ちがよく分かる美味しさでした。今でもあのタコス进行くと、Jaime同様テンションが上がるうえ、Jaimeとの思い出の数々がこみ上げてくる思い出の食べ物です。 I LOVE TACO, TOO！

またしても食べ物の話になってしまいますが、夕飯にとんかつとお好み焼きを作ったことについて。異国で和食を作るのには正直なところ、勇気がいりました。食材も思うようなものが手に入らず、おいしくできるかどうか、ドキドキでした・・・しかし普段から料理している成果がでて、限られた食材の中で最高の料理に作り上げることができました。ナイフとフォークでお好み焼きととんかつを食べている様子は何とも不思議な光景でしたが、皆、目を輝かせながら、Very good!! Thank you very much, Yuya. と言ってくれました。

お、あつという間にこんな時間・・・。まだまだ話したいことは山ほどありますが、残りは写真でお楽しみください！

そして最後にホストファミリー一家へ。

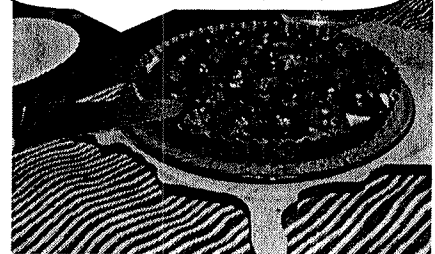


invitation, I could experience a valuable experiences.
Thank you very much. I will never forget you!]

レンジャーズ

VS

ダンパーのために作ってくれたストロベリータル



Amrican BBQ！

テキサスに
戻りたくなる
味（泣）



Very
very
Very
GOOD!

